

第二椎の実子供の家
令和3年度 事業報告

令和2年度から引続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止をしながらの保育園生活となった。保育所での保育の行い方は、厚生労働省子ども家庭局保育課の事務連絡や三鷹市子ども育成課の「新型コロナウイルス感染対策における保育の基本的な考え方」に従った。

衛生面では日々清潔を心掛けた。アルコールや次亜塩素酸水溶液による消毒に力を入れた。消耗品は補助金を活用し、消毒用アルコールや、使い捨て手袋、職員用サージカルマスクなど、在庫を切らすことなく購入し、安全な保育に努めた。

運動会や音楽リズム発表会等の行事は縮小して実施した。普段の保育では過剰に神経質にはならず、子ども同士の触れ合いや保育者との愛着関係を大切にして生活を送っていたが、令和4年1月に新型コロナウイルス感染症の流行が、デルタ株からオミクロン株に置き換わってからは、園内でも感染者が多数発生し、保育体制にも配慮せざるを得なくなった。幼児クラスは異年齢保育を年齢ごとの横割り保育にしたり、マスクの着用を推奨したり、更なる感染予防に努めた。また、全クラス、朝夕の保育もなるべく各年齢の子ども達が接触しないようにするなど環境づくりと職員配置の工夫をした。

保護者との関わりでは、懇談会などは中止にはせずリモートで行うなど、今までとは違う手段で行った。最初は不安があったものの、慣れてくるとリモートの便利さもあり、家から参加する人、職場から参加する人など、様々だった。

また地域に対する保育園の役割と責任として、保育実習生とモンテッソーリ教育研究所教員養成コースの実習生受け入れなど次世代育成支援に努めた。

重点目標

- I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる
- II 保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す
- III 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る
- IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する
- VI 椎の実子供の家園舎建替事業

I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる

0歳～2歳児はモンテッソーリ活動を積極的に行いながらも、室内と屋外の両方で体を使って遊び、自分でできることが増えることに喜びを感じていった。運動遊びに力を入れ、ホールや保育室で巧技台を使い、体をたくさん動かしていた。

3、4、5歳児は、縦割り混合クラスで過ごし、年長児が年下の子をお世話することで、思いやりや憧れの心を育むことができた。しかし、令和4年2～3月は年齢ごとで過ごすことが多く、その分製作活動などを積極的に行っていた。

年間を通じて就学前カリキュラムを活用し、5歳児独自の時間を設け、自分の名前をきれいに書く練習やひらがなの練習など、就学前の準備を行った。また進学するにあたって、マスクの着脱や管理の仕方を練習した。一方、コロナ禍ではあったが、歌が上手に歌える年令なので、換気に配慮し、卒園式で披露した。保護者の方に子ども達の成長の証として喜んでいただくことができた。

II 保護者との共育てを意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

お便り等を活用し、保育園の活動の目的や成果を知らせ、保育に関する理解や興味を持っていただけるよう努力した。クラス懇談会はリモートで行えたが、保育参観は行うことができず、再開してほしいという意見が多かった。園としても、保育園での様子を全く見た事が無い保護者が増えてきており、実際に見てもらうことで子どもへの理解が深まるだろうと思っはいるが、感染症が治まらないうちは難しいと考えている。

個人面談は必要に応じて対面で行い、お子さんに対する共通理解を図った。また、5歳児の保護者とはそれぞれ就学前の面談を行うことができた。

III 幼児教育機関として、より専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

次世代を担う保育士の育成として、子ども一人ひとり今必要なことは何かを、保育者が状況に応じて瞬時に判断し、実行する保育者を目指していった。

幼児教育機関として、市内の各施設との連携も行った。特に子ども発達支援センターの巡回指導を可能な限り活用し、発達に課題のある子は専門機関に繋げることに努めた。職員も課題がある子をどのタイミングでどこに繋ぐべきか、具体的な対応に自信を持つことができた。

またモンテッソーリ教員資格取得については、法人による学費助成制度を活用し、学びに励んでいた3名の保育士が通信の幼児コースでの学びを修了することができた。しかし資格を取得までには至らなかった。その結果、資格取得は令和4年度に持ち越しとなった。

IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

新型コロナウイルス感染症対策として、施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。インフルエンザや胃腸炎等の感染症については、初期対応の徹底により流行することは無かった。園では職員の手洗いの更なる励行と、マスクの着用を徹底して行った。また、保護者への手指消毒とマスクの着用を義務付けた。保育室は換気を心掛けた。給食の食べ方も工夫を行い、机の数を増やし、子ども同士の距離を開けたり、一部アクリル板やパーティションの設置を行ったりした。また、保育士は保育室での食事は行わず、必ず別室で食事を摂った。

食物アレルギーについては、安全で安心な給食提供を行うため、全職員が基礎知識を持ち、日常的なコミュニケーションの徹底を図り、年間を通して誤食などの事故予防に努めたが、1月に外注品に卵を使用しているものがあり、卵除去のお子さんに提供してしまった。アレルギー反応を起こしたお子さんは1名だったが、それ以外の対象児の保護者にも状況説明を行い、お詫びをした。また、今後の対応策についてもお知らせした。

V 椎の実子供の家園舎建替事業

令和3年12月に、外観はガラス張りで近代的で内装は木のぬくもりにあふれた、明るく広い新園舎が完成した。

真冬の感染症の流行を配慮して、12月中に内覧会を実施した。密を防ぐため、日にちをずらし、近隣地域の皆さま、在園児保護者、三鷹市関係者の方々、私立保育園関係者などに、新園舎を見て頂くことができた。

仮園舎から新園舎への引っ越しは、12月18日(土)に保護者ボランティア、椎の実子供の家と第二椎の実子供の家職員、引っ越し業者で行った。感染症予防に努めて行い、無事引っ越しが完了した。

引っ越しが年度内に終了したため、5歳児も3か月間新園舎で生活することができた。また新しいホールで卒園式を行うことができ、保護者の皆さまに喜んでいただくことができた。

1 園児について

園児とクラス編成

- (1) 定員 120名
- (2) 年齢別 ① 0歳児 9名 ② 1歳児 17名 ③ 2歳児 22名
④ 3歳児 24名 ⑤ 4歳児 24名 ⑥ 5歳児 24名
- (3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定員	在籍数	保育士	職員数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園長 1名 主任 2名 保育士 17名 看護師 1名 栄養士 1名 調理員 2名 非常勤職員 20名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	17名	17名	4名	
つくし	2歳児	22名	22名	4名	
もも	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
さくら	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
あんず	3歳児	8名	8名	2名	
	4歳児	8名	8名		
	5歳児	8名	8名		
合計		120名	120名	17名	
一時預かり いちご	満1歳～5歳	6名		2名	45名